ABASHIRI TIMES
網走タイムズ
発行所
網走タイムズ社
〒093-0035
網走市駒場南1丁目1-6
電話 0152-45-8080
FAX 0152-45-1511
メールアドレス
ab-times@eagle.ocn.ne.jp
2023年
9月9日(土)

メガネのワイング
千里堂メガネ
網走市南4条西3丁目
☎44-2233
日専連カードご利用下さい。

今週末はさんご草まつり

能取湖畔　秋色に染まる

網走に秋の訪れを告げる「能取湖さんご草まつり」が9、10の2日間、市卯原内のサンゴ草群落地で行われる。（今村）

秋の道東を代表する景勝地が会場。主役のサンゴ草は、厳しい残暑に耐え、次第に色づいてきた。

湖畔は、深紅のじゅうたんを広げたような、美しい光景となっている。

まつりは、恒例の西が丘小全校児童によるオープニング演奏で9日午前10時に開幕する。

会場には、ふるさとの味覚を楽しむ屋台や焼き台コーナーが並び、ちびっこに人気のミニSLも登場する。

開会式終了後、ステージでは子ども向けのお菓子まきやもちまきが行われる。

正午からは当日受付のカラオケ大会が行われ、地域ののど自慢をはじめ、市民や観光客らがマイクを握る。

……

深紅に色づく湖畔で、さんご草まつりが開かれる

10日は午前11時からジャガイモ、ニンジン、カボチャなど、用意された野菜を3キロに組み合わせる「野菜ぴったんこゲーム」で盛り上がる。

午後1時からは5枚のホタテをむく早さを競う名物の「ホタテ早剥き大会」が行われる。

その後、オホーツク管内のよさこいチームがエネルギッシュな演舞を披露し、閉会式を迎える。

2日間ともにステージイベントの最後は、地元特産品などが当たる抽選会が行われる。

抽選会に参加できる抽選券付ビール引換券は当日1200円で販売する。

問い合わせは卯原内観光協会（☎47―2301）へ。

気温「かなり高い」続く

網走地方の天気

気象庁によると、今週末から来週前半にかけての網走地方は、曇り時々晴れの日が多く、平年よりも5度ほど気温は高い日が続く。

週末のさんご草まつりは好天に恵まれそうだ。

北上を続ける台風13号は10日未明、北海道の南南東沖（日本の東）を北北東へ30キロの速さで進み、熱帯低気圧となる予報。

きょう9日から11日にかけては、網走地方は高気圧に覆われる。

空模様は曇り時々晴れで、降水確率は20―30％の見込み。

最高気温は平年値の21・7度より5度ほど高い25―26度まで上がるとみられる。

最低気温も平年値の14・7度より高い18―19度で推移する。

2週間温度予報によると、来週いっぱいは、最高気温は24―26度で、平年より「かなり高い」状態が続く予報となっている。（今村）

コミュニケーションとは？

網走南高定時制　札幌大教授が出前講義

網走南ケ丘高で「大学出前講義」が行われ、生徒がコミュニケーションについて学んだ。

大学の講義を体験することで、生徒の進路に対する意識を向上させるとともに、広い視野を育てるのがねらい。

札幌大の小嶋義勝教授が「コミュニケーションを考える～話せば分かる？分からない？」のテーマで講義を行った。

最初に、言葉を介さずに目的を達成できるかを実験した。

生徒から代表1人を選び、その人の誕生日を中心にして、全生徒の誕生日を言葉を使わずに確認し、日付順に並ぶことができるかというもの。

生徒たちは身振り手振りでお互いの誕生日を確認していたが、そのうちスマホを介して確認する方法が広まり始め、小嶋教授があわててスマホを禁止にする一幕も。

現代っ子ならではの手法もみせながらの挑戦だったが、5分ほどで並び順が完了。1人ずつ誕生日を確認していくと、日付順になっていなかったのは4人となり、言葉を介さないコミュニケーションの難しさを実感した。

言葉で説明しても、人によって受け取め方が変わる実験では、小嶋教授がいわゆる「絵描き歌」のように図形の種類や描く位置を指定。生徒たちがどのような絵を描くかを確かめた。

小嶋教授の指示は「まるを書いて」「そこに三角を2つ書いて」「下に四角を書いて」「真ん中に縦線を書いて」の4つ。特に「そこ」を「底」ととらえるか、それとも指示詞の「そこ」と受け止めるかによって、最終的に出来上がる絵が変わるという。

4つの指示を聞き終えた生徒が描いたのは、漫画に出てくるおでんのようだったり、ロボットの顔のようだったりと、さまざま。生徒同士で見せ合って笑う一方、言葉だけでは正しく伝わらないことを実感した。

このほか、歩く姿でその人の感情を読み解く実験、アで始まるうれしい言葉探しなど、コミュニケーションについて考える実験に取り組んだ。

最初は緊張ぎみだった生徒たちも、実験に取り組むごとに少しずつ緊張がほぐれ、講義を楽しむように変化。みな積極的に発言するようになり、教諭も驚くほど。コミュニケーションを学ぶと同時に、実験を通して生徒間のコミュニケーションをより深めることができたようだ。

同校定時制では、社会人に必要なコミュニケーションを重要視しており、さまざまな場面を通して生徒たちがコミュニケーションを学ぶ場を設けている。

今回の出前講義もそのひとつ。定時制の堀籠美羽教諭が、札幌大の卒業生なことから小嶋教授に依頼し、実現した。（伊藤）

コミュニケーションを考えながら、大学の講義を体験した